

夏秋ギクの気候変動に適応した露地・施設電照栽培法の確立

1 目的

気候変動の影響により、キク類の8月や9月の需要期への計画出荷が困難になっていることから、栽培適応品種の選抜や、高温への対策技術の検討を行う。

2 研究成果

■ 栽培適応品種の選抜

- ・赤色LEDを用いた露地電照栽培に適する夏秋ギク品種を選抜
- ・県内の2地域(R3:南三陸町、R5:丸森町)において現地検討会を開催

■ 摘心作業の省力化技術の開発

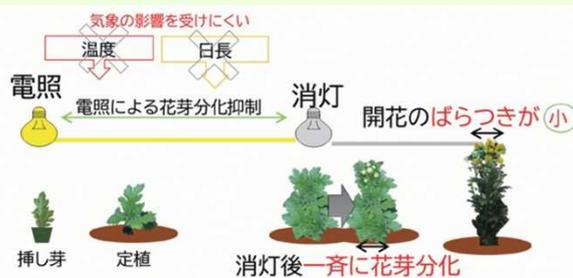
- ・セルトレイで摘心、当日に定植することで、慣行(定植1週間後にほ場で摘心)と同等の切り花品質を確保できる。

■ 高温の影響が大きい生育ステージの解明・対策技術の開発

- ・8月盆出荷作型の場合：特に消灯(6月中旬)から発蕾期(6月下旬～7月上旬)の高温は開花遅延に大きく影響する。

露地栽培での電照栽培：気温や日照などの影響を受けにくくすることが可能

■ 赤色LEDを用いた露地電照栽培への適性が有り、切り花品質に優れ、高温耐性を有する品種を選抜



慣行：定植後に行う摘心作業

- ・天候による作業の制約
- ・ほ場を屈んで移動：身体的負担大



■ セルトレイ育苗期の摘心作業

小面積かつ立ったまま又はテーブルで腰を掛けて作業が可能
→労働負担の軽減や省力化

■ 高温の影響が大きい生育ステージ(消灯から発蕾期)

効果的な対策方法を検証

- ・細霧冷房(施設・露地)
- ・寒冷紗遮光(施設)



さらに詳しい内容は「普及に移す技術」

第99号「赤色LED ランプを用いた露地電照栽培に適する夏秋ギク品種」、
第99号「夏秋ギクのセルトレイ育苗期における定植前摘心」をご覧ください。

https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/hukyuu-index.html

